

加藤警察庁保安課長講話

日遊協総会席上

要旨

6月9日

業界の牽引役に敬意 これまで以上の透明性を

ただいま御紹介に預かりました警察庁保安課長の加藤でございます。

本日は、社団法人日本遊技連事業協会の第22回通常総会にお招きいただき、お話をする機会をいただいたことに厚く御礼申し上げます。まずもって、本日の通常総会が盛大に、滞りなく行われましたことを、心からお慶び申し上げます。また、3月11日に発生した東日本大震災により、ぱちんこ業界の皆様におかれましても、数多くの営業所等で甚大な被害を被つておられることと承知しており、心よりお見舞い申し上げます。

震災に伴う大混乱の中、貴協会におかれましては、いち早く本部事務局に対策本部を設置して被災状況の把握に努められるとともに、深谷会長御自身が陣頭指揮を執つて被災地に赴かれ、被災状況の確認や必要物資の提供等に御尽力されました。また、貴協会の各支部からボランティア隊を派遣し、現在も継続して支援活動を続けられているとも伺っております。その献身的な

対応は、将に業界の牽引役としてふさわしく、改めて敬意を表する次第です。

加えて、大震災への対応につきましては、当庁から、貴協会に対しまして、施設の節電対策等について協力を要請いたしましたところ、各ホール団体との連携の下、ネオンサイン等の可能な限りの消灯や営業時間の短縮等を通じた節電対策に加え、被災地等を管轄する都道県警察への各種申請の自粛に御配慮いたぐなど、迅速かつ真摯に対応していただきました。改めて厚く御礼申し上げます。

さて、貴協会では、平成元年に設立されて以来、長きにわたって、業界唯一の横断組織として、その社会的責任を自覚し、各団体の先頭に立つて、ぱちんこ営業の健全化に尽くしてこられました。

一方で、残念なことではありますか、依然としてぱちんこ営業については、過度に射幸性を追求した営業の問題や、のめり込み、不正改造事犯等といった健全化を阻害する問題が指摘されています。その1つ目は、過度に射幸性

れています。今後とも、こうした問題一つ一つに対し、貴協会を含め業界が一致団結して、誠実に、かつ着実に対処していく必要があります。

この度の東日本大震災では、ぱちんこ業界における電力使用の在り方に、大きな批判が寄せられました。この点については、これまでのぱちんこ営業の在り方への批判と節電の風潮とが相まって、業界に向けられる世間のまなざしが厳しくなったことは否定できないところです。3年前の平成20年、貴協会は設立20周年を機に、「ぱちんこ産業の10年後のあるべき姿を掲げ、「日遊協のビジョン」をまとめられました。このビジョンには「娯楽の原点を見つめ直す」ことが、大きな柱として掲げられております。娯楽の原点とは、一般市民にとって、手軽に、安く、安心して余暇を費やして遊べる身近なものであることと考えます

が、ぱちんこ営業というものが健全であつて初めて、そのようないことだと思います。この業界に感じられるることは言うまでもないことはあります。この業界への風当たりが厳しい現在の情勢にあつて、ぱちんこ業界は、これまで以上に透明性を高め、社会との協調の下、一体となつて強力に健全化を進めなければならぬ状況に置かれていると聞いてよいと思います。

過度に射幸性を追求した営業を行った意識を

本日は、せつかくの機会ですでの、まず初めに、業界の健全化を推進する上で、特に必要であると考えることを大きく2点に分けてお話しさせていただきます。

1点目は、古くからある問題です。現在、業界では、以前のようなくなりました。この1つ目は、古くからある問題についてです。これについては、3つお話しします。

け1円ぱちんこ等の低貸玉営業について、その導入率は全店舗の7割を超えるといわれております。こうした中、貴協会では、これまで遊技機メーカーと協力し、「気軽に長く遊びたい」、大当たりをたくさん引きたい」という遊技客のニーズに応えた射幸性の低い、幅のあるゲーム性を有する遊技機の開発に力を注いでこられました。加えて、本年2月には、これを更に推し進められたため、「もっと楽しく!!もつと遊べる!!ぱちんこ＆パチスロフェスタ」を主催されるなど、幅広い年齢層の方が、低予算で安心して「遊技」を楽しんでもらう、という大衆娯楽の原点に立ち返ろうとする姿勢を強く打ち出されています。

このように業界全体で射幸性を抑える取組を推進し、これを実現していくためには、ホール営業者のみなならず、遊技機メーカーとの共通理解が必要不可欠であると感じております。私どもホール団体との連携の強化にも引き続き御尽力いただきますようお願いいたします。私どもとしてもお頼りいたします。私は射幸性の高まりということには常に問題意識を持つて注視してまいりたいと思いますので、引き続き、今の方々をぶれることなく堅持していただきたいと考えております。

幸運の低い、幅のあるゲーム性を有する遊技機の開発に力を注いでこられました。加えて、本年2月には、これを更に推し進められたため、「もっと楽しく!!もつと遊べる!!ぱちんこ＆パチスロフェスタ」を主催されるなど、幅広い年齢層の方が、低予算で安心して「遊技」を楽しんでもらう、という大衆娯楽の原点に立ち返ろうとする姿勢を強く打ち出されています。

このほか、遊技客の射幸心をそそるものとして、使用される遊技機だけでなく、営業に係る広告・宣伝についても、その在り方に関心をもつていただきたい方においては、御案内とおり風営法においては、営業所周辺における清浄な風俗環境を害するおそれのある方法での広告・宣伝を規制しております。御案内によればには、著しく射幸心をそそるおそれのある行為が行われていることなどをうかがわせる内容の広告・宣伝等が該当いたしました。本来であれば、遊技機の性能には入賞を容易にする調整は加えられないところ、そのようなことをほのめかす広告は依然として見受けられるところであ

まに、平成16年の規則改正以前にホールで使われていた4号機を使用した、「闇スロ」と呼ばれる賭博事件も跡を絶たず、昨年中の検挙は14件（※今年は5月末日現在4件）との報告を受けております。このような事件は、ぱちんこ営業者が行っているものではありませんが、ぱちんこ営業に使われていた遊技機が犯罪行為に使用されている、ということは事実であります。

この点、皆様には、遊技機の適正な管理に加え、その廃棄に当たつても、適正を期すよう努めていただきますようお願いします。

業界が射幸性の抑制という、現在のぱちんこ営業が目指すべき方向性に向けて懸命に努力さ

のめり込み問題

その2つ目は、のめり込みの問題についてです。

ぱちんこ業界が、健全化に向けて様々な取組を懸命に続けていますが、依然として、ぱちんこのめり込みが要因と見られる犯罪や児童の車内放置事件が散見されることも事実であります。去る4月には、乳児を自宅に置き去りにして、ぱちんこ遊技をしていた結果、乳児が死亡し、両親が保護責任者遺棄容疑で逮捕されるという痛ましい事件が発生しております。業界においては、被災者へのケアにも取り組まれるなど、極めて社会的大きな貢献をされているとともに、先般発生した東日本大震災については、被災者へのケアにも取り組まれるなど、極めて社会的大きな貢献をされているとともに、被災者へのケアにも取り組まれるなど、極めて社会の大

きな貢献をされているとともに、被災者へのケアにも取り組まれるなど、極めて社会の大

きな貢献をされているとともに、被災者へのケアにも取り組まれるなど、極めて社会の大

きな貢献をされているとともに、被災者へのケアにも取り組まれるなど、極めて社会の大

きな貢献をされているとともに、被災者へのケアにも取り組まれるなど、極めて社会の大